初教
KAWARABAN
かわらばん
第11号
2009.7.15
広島文教女子大学
教育学会 発行

かわらばんインタビュー
今年度で退職される先生へのインタビュー

いつもきちんと整頓されており、窓際には観葉植物、窓の外にはたくさんの新緑が目の中に飛び込んでくる、開放感のある研究室。ここで毎日研究活動をなさっている金舛俊乍先生にインタビューをしました。

かねます しゅんさく
金舛俊乍先生

インタビュアー
高山桃子、土江典子
（初教4年・算数専修）

高・土：よろしくお願いします。
金舛：よろしくお願いします。
高山：金舛先生は、この広島文教女子大学には、どれぐらいいらっしゃるんですか。
金舛：1989年にきましたから、今21年目を迎えております。
高・土：そんなにですか?!
金舛：長いですね～。
高山：私が生まれたのが1988年３月なので……。
金舛：１歳の時ですね。
高山：そうですね！
土江：すごい……。
金舛：1988年の時に、非常勤で１年間ここに来ました。そして、89年に向こうの現場を退職して、こちらに来ました。ですから、21年になります。ちょうど教職生活の半分になります。現場で22年間ありましたから、来年で退職したら約半分になりますね。
土江：私はずっと、先生は他の大学からこの大学にいらっしゃったのかと思ってました。
金舛：大学に来る前は、広島大学の附属三原中学校で数学の教員をしておりました。それが20年。その前が公立の中学校で２年間。でも今となってみては、文教女子大学のほうが楽しいし、退職するのでなしに、ずっといたい……。なぜ私を退職させるのでしょうか。
高・土：(笑)
金舛：仕方がない。年齢ですね。
高山：初めに、20年前にはどうして文教女子大学に来ることになったのですか。
金舛：どうして来ることになったかというと、当時学科長の倉田侃司先生から、ここへ来て学生に数学を教えなさいと命令を受けて来ました。
　そして、１年目に初教７期生のチューターをしました。６期生の卒論も見ました。算数専修も６期生から教えていて、今の４年生（26期生）が最後の「ますっ娘」になります。
土江：私達が26期生だから、６期生からというのは本当に20年前ですね。
金舛：私はどうして文教に来たかというと、とにかく教員という仕事が好きでした。ですから、文教女子大学で、初等教育学科の学生が、１人でも多く教員になってほしいという気持ちで来ました。なんとか役に立てればという気持ちでね。
　それともうひとつは、１年間非常勤講師をした時に、ここの学生が非常に素直だということ。それは今もなんですが、夢や目標に向かって一生懸命に努力している姿をみて、本採用になって一緒に勉強しようという気持ちになりました。それから早20年が経ちましたが、その姿勢は今も変わらない。26期生もその伝統を確実に受け継いでくれていますし、そして、その姿を見て後輩たちも頑張っている。その姿をみたら、やはり、日本の教育を動かすのは広島文教女子大学の学生であるという強い信念を持っています。学生自身もその力を持っていますし、私自身もそういう願いを強く持っております。
土江：先ほどの話で、文教は楽しくて退職したくないとおっしゃっていましたが、たくさんの思い出の中で、今一番心に残っていることや楽しかったことがあれば聴かせてください。
金舛：一番心に残っていることは、創設者の武田ミキ先生との出会いです。面接のときに、「私たちと一緒に、共に学生の教育にあたりましょう」とおっしゃったミキ先生の熱い気持ちがそのまま今もあります。そしてミキ先生は常々、「教育は人なり」ということを言ってくださいました。まさに自分もそういった理念を持っているので、その言葉を今も大切にしています。
　あと、一番の思い出というといろいろ思い出はありますし、どの学生も好きですよ。しかし、やはり「ますっ娘」たちというのは一緒にゼミをして過ごした仲間ですから、今でもいろいろな年代の「ますっ娘」たちが浮かびます。特に、この時期になると「ますっ娘」たちを可愛く感じます。
　楽しい思い出は、大学祭で指揮者をしたことです。合唱の指揮をしたというのは忘れられない思い出です。私は常々「学級はオーケストラである。教師は指揮者である」と言っています。指揮者次第で子どもたち、あるいは学級はどのようにでも演奏される。指揮者がまずかったらまずい演奏になるし、指揮者の心がけ次第で立派な演奏もできると信じています。その私が大学祭で指揮をさせていただいたというのは一生の思い出です。
　最後に、学生に期待することは、文教の学生は大学の建学の精神である「心を育て、人を育てる」という大切な教訓をいつまでも受け継いでもらいたい。そして、心豊かな人間になると共に、心豊かな先生になって子ども一人ひとりに豊かな心を育てていっていただきたい。確かな学力というもの、本当の学力を身につけていっていただきたい。
　最後に残す言葉は、「初等教育学科ばんざい!!」初等教育学科の卒業生が永遠に日本の教育界で活躍されることを期待します。
高山：先生、退職後の予定はお決まりですか？
金舛：退職後は、教育の世界から一切身を引いて、陰から文教の活躍を祈っています。そして私自身は、第二の人生に向かって羽ばたいていきます。やりたいことがいっぱいあるんです。絵を描くこと、旅行すること、写真を撮ること、碁を打つこと。出来れば地域の人の何かの役に立てれば、こんな幸せな人生はないと思います。私は百歳まで生きるつもりです！
高山：実現しそうですね……（笑）

　インタビューは、終始和やかな雰囲気の中で進められていきましたが、最後の方の先生の言葉は、強がりを言いながらも、心の中では涙声のように感じました。金舛先生、本当にありがとうございました!!

自然大好き、いつも熱心な新枝先生。先生は物理の授業や情報教育のゼミなどで大活躍されています。そんな新枝先生が、今年度をもって退職されることになりました。そこで、今回は新枝先生にたくさんお話を聞いてきました。

インタビュアー
佐々木美輝
（初教2年・教育学専修）

あたらし まさる
新枝 勝先生

ゼミの学生・福田慶子さん
（初教３年・情報教育コース）と。

佐々木（以下「佐」）：新枝先生はどこに住んでいらっしゃるのですか？
新枝先生（以下「新」）：安佐北区の鈴張ってところ。わかるかな。野外活動センターが近いよ。
佐：なるほど。では、先生は文教に来られて何年目になりますか？
新：うーん……20年にはまだならないかなあ。初めは広島大学に19年間勤めていたんだけど、キャンパスの場所が変わって、文教に来たんだよ。家に帰ったら農業もしなくてはならないからね。農業は子どものころからずっとしてきたんだ。大学４年間、院５年間行ったけど、その９年間の学生生活も農業と両立させながら続けたよ。
佐：長いですね。９年間、学生生活をする間も、学業と農業を両立させてきたなんて尊敬します!!すごいです!!何をつくっていらっしゃるのですか？
新：お米に野菜、果物……なんでも育てるよ。今はちょうどキウイフルーツの花が咲いている時期かなあ。赤いキウイとかは知ってる？新品種なんだけどね、すごくおいしいよ。だから、最近はつぎ木をして、全部赤色キウイに変えた。僕は、つぎ木のプロだよ。
佐：すごいですね!!赤色のキウイなんて見たこともないです。食べてみたいなあ。
新：秋になったらきっとおいしい実ができるはずだよ。
佐：わあ、楽しみですね。……ところで、つぎ木って何ですか？（苦笑）
新：あら!!知らないの？つぎ木っていうのは、ある木に別の木をついでやることだよ。例えば、僕が今までにしたことがあるのは、モクレンの木かな。１本の木に、白色、赤色、黄色の３色の花を咲かせたよ。あと、おもしろかったのは、サツマイモのつるにアサガオの花を咲かせてみたことかな。
佐：サツマイモにアサガオ!?すごくユニークな発想ですね。おもしろい!!では、先生の趣味は何ですか？
新：趣味～？たくさんあるけど、やっぱり農業が好きかな。自分が食べるためとかではなくて、作ったものを人が食べておいしいと言ってくれるととてもうれしくなるよ。それが農業をする上での楽しみかな。
佐：すてきです。そう言えば、先生はたくさんのおもしろいものを作っていらっしゃいましたよね。孫の手やパズルなど、全部手作り。その中でも自信作は何ですか？
新：そうだなあ……。自信作というか、天体望遠鏡を作ったのはとてもおもしろかったね。できあがったもので、星を観察するのも楽しかったけど、やっぱり作ることがおもしろかった。レンズから磨いたからね。
佐：先生!!すごすぎです!!
新：いやいや、そんなことないけど、楽しかったよ。
佐：本当にすごいですよ。まず、天体望遠鏡を作ろうという発想ができないと思います。では、文教での思い出は何かありますか？
新：何もないよ。ここでも、広島大学でも、特別なことなんて何もない。ただ、毎日を、平穏に過ごすことができた。よかった。退職後は、農業に専念できるから、楽しみにしているんだよ。
佐：平穏って大切ですよね。それでは、退職後農業に専念されたら、どのようにお過ごしになられますか？
新：自然と一体になって過ごしていく。"自然に身をまかせてすごす。"
佐：名言ですね。それでは、最後にひとこと、初教の学生にメッセージをいただけますか？
新：まだ、メッセージだなんて、そんなお別れみたいなことは言わないよ。僕は今も文教で過ごしているのだから。まだまだみなさんと一緒に頑張るよ。
佐：ありがとうございます!!これからも、まだまだよろしくお願します!!

　先生の研究室を訪ねれば、手作りの楽しいゲームや、何種類ものめずらしいサボテンなど、たくさんのすてきなものに出会うことができます。先生が退職される前に、みなさんもぜひ、新枝先生の研究室を訪ねてみてくださいね。
　心から感謝を込めて、新枝先生、
本当にありがとうございました(*^_^*)

本学へ着任された当初の肖像画
（元本学教授・安森征治先生・画）

小学校支援活動紹介
児童教育コース音楽専修の取組みについて

　私たち音楽専修の学生（９名）は、2008年10月末に大林小学校で演奏会を行いました。鑑賞授業として、小学３年生から小学６年生の児童のみなさんに聞いていただきました。音楽鑑賞会での３つのねらい「どんな楽器かな」「どんな音がするのかな」「どんな感じのする曲かな」ということを考えながら、児童たちは私たちの演奏を鑑賞してくれました。
　演奏会の内容は、45分で納まるように曲を選び、自分が得意とする楽器を演奏したり、９人で合奏したり、洋楽の合唱をしたり、ピアノ連弾や童謡をアレンジしたりするなど、幅広いジャンルを披露しました。
　当日は、以下の演奏を披露しました。

1．情熱大陸（クラリネット，アコーディオン，バイオリン，ファゴット，ドラム，打楽器，ピアノ連弾の合奏）
2．リベルタンゴ（ピアノ連弾）
3．星に願いを（トーンチャイム）
4．ジョイフル・ジョイフル（合唱）
5．山の音楽家（こりす：バイオリン、たぬき：こだいこ、さる：トランペット、きつね：ギター、ふくろう：ファゴット、シーサー：三線をピアノ伴奏に乗って、動物になりきって演奏）
6．童神（合唱）
7．崖の上のポニョ（合奏と歌・ダンス）

　普段のゼミでは、個人で取り組んでいるピアノ曲の練習やロビーコンサートに向けての練習、可部南小学校へ音楽授業支援ボランティアに励んでいました。その練習等に、大林小学校での演奏会の練習が加わり、さらに音楽活動に対する意識が強まりました。
　演奏会までのゼミの時間では、児童たちが鑑賞することを常に考えて練習に取り組みました。何曲もの練習を、９人で力を合わせてしていきました。個人で演奏する楽器の練習、合唱のパート練習や連弾の練習など、いつも以上に９人全員と深く関わり、音楽を楽しむことができました。
　演奏会では、真剣に私たちの演奏に耳を傾けている姿勢をうかがうことができました。私たちの発問にも積極的に手を挙げて発表してくれたり、手拍子や簡単な振り付けをしてくれたりして、とても嬉しく思いました。
　演奏会終了後、児童たちは「ありがとうございました！」「また、演奏会を開いてね！」など嬉しい言葉を私たちにたくさん送ってくれました。そして、握手まで求められる状況にまでなりました。達成感と児童たちの笑顔に囲まれた嬉しさで、胸がいっぱいになりました。
　小学校での演奏会という貴重な体験をさせていただいたことに、とても感謝しています。この活動を通して、児童たちや先生方の前で演奏することに対して度胸がつくとともに、音楽活動に対する意欲向上へと結びつきました。

卒業生からのたより

15期生 山﨑　智子（旧姓：磯村）【山口県】
1才2ヶ月の娘の育児に追われる日々です。ゆっくりのんびり、自分も娘と共に成長していきたいなと思っております。

16期生 飯田　佳子【山口県】
今年度からスタートした「学力向上支援員」という立場で、小学校で勤務しています。今の自分にできることを精一杯するように心がけています。

17期生 松永恵津子（旧姓：坂口）【長崎県】
3～5才児12名を担当しております。わが娘も3才半になり、仕事に子育てに慌ただしい毎日です。「かわらばん」での懐かしい山下先生の笑顔とお言葉にとても励まされました。

18期生 小田美智子【広島県】
上安小に赴任し、3年目を迎えました。今年度は持ち上がりの5年生です。（3年間ずっと持ち上がりました）日々子どもたちから教わることばかりで刺激たっぷりの毎日です。

19期生 小松　瑞穂【広島県】
今年2年目で6年生の担任をしています。縁あって後輩（20期生）と同じ学校で勤務しています。大変なこともありますが、文教パワーで頑張っています～!!

20期生 天野小也香（旧姓：今田）【大阪府】
かわらばん、いつも楽しく読ませていただいています。今年は去年に引き続き4年生の担任をしています。今、運動会の練習で子どもたちと同じくらい黒くなってます。元気いっぱいの子どもたちに囲まれて幸せです。

21期生 淺見　明美（旧姓：田中）【神奈川県】
第10号の"紙ひこうき同好会"のサークル紹介を読んで大学時代の思い出がよみがえってきました（友人たちと立ち上げた同好会でしたから）。このサークルで培った「読み聞かせ」は現場でも子育てにも役立っています。第2子妊娠中で復職が伸びましたが、子育ての経験をこれから活かしたいと思っています。

22期生 黒木安希子【宮崎県】
3～6年音楽と5･6年理科の専科をしています。11月には4年生の音楽大会があるので練習を頑張っているところです。

23期生 岡本　浩江【広島県】
2年目になりますが、今年はクラスを持たず保育所全体に視野を向け、見通しをもった保育所運営、クラス運営、子どもの成長を日々考えて日常を過ごしています。難しいけどがんばっています。

24期生 山本貴美花【神奈川県】
元気いっぱいの子どもたちに囲まれて、毎日がんばっています。同じ職場の先生方にもたくさんのことを教わっています。大学での出会いや学びを子どもたちに伝えていけるように努力しています。